

2017.6.19 17:53

荷下ろし中、フック外れて直撃、下敷きに…800キロ鉄板落下、作業員の男性死亡 大阪の新名神建設現場

大阪府箕面市下止々呂美（しもとどろみ）の新名神高速道路の建設現場で19日午後午後0時10分ごろ、40代の男性作業員が重さ約800キロの鉄板の下敷きになった事故で、トラックの荷台から鉄板をクレーンで降ろす作業中、鉄板が地面に着く直前につるしていたフックが外れ、地上にいた男性を直撃し、男性が下敷きになったことが、大阪府警箕面署への取材で分かった。

男性は意識不明の重体となり、病院へ搬送中に死亡が確認された。

箕面署などによると、鉄板は縦1・3メートル、横3メートル、厚さ2センチ。事故当時、1枚ずつ降ろして地面に敷き詰める作業をしていたという。

新名神高速道路では昨年4月、神戸市北区の建設現場で橋桁が落下し作業員10人が死傷。翌5月には今回の事故現場付近で仮の橋脚が倒壊しており、事故が相次いでいる。箕面署は業務上過失致死容疑も視野に、安全管理の状況を調べる。



鉄板が落下したとみられる現場付近。作業員1人が下敷きになった＝19日午後2時13分、大阪府箕面市（本社ヘリから）

©2017 The Sankei Shimbun & SANKEI DIGITAL All rights reserved.